

我が国トラヒックの増加傾向に関する補足（第2回資料2-4補足）

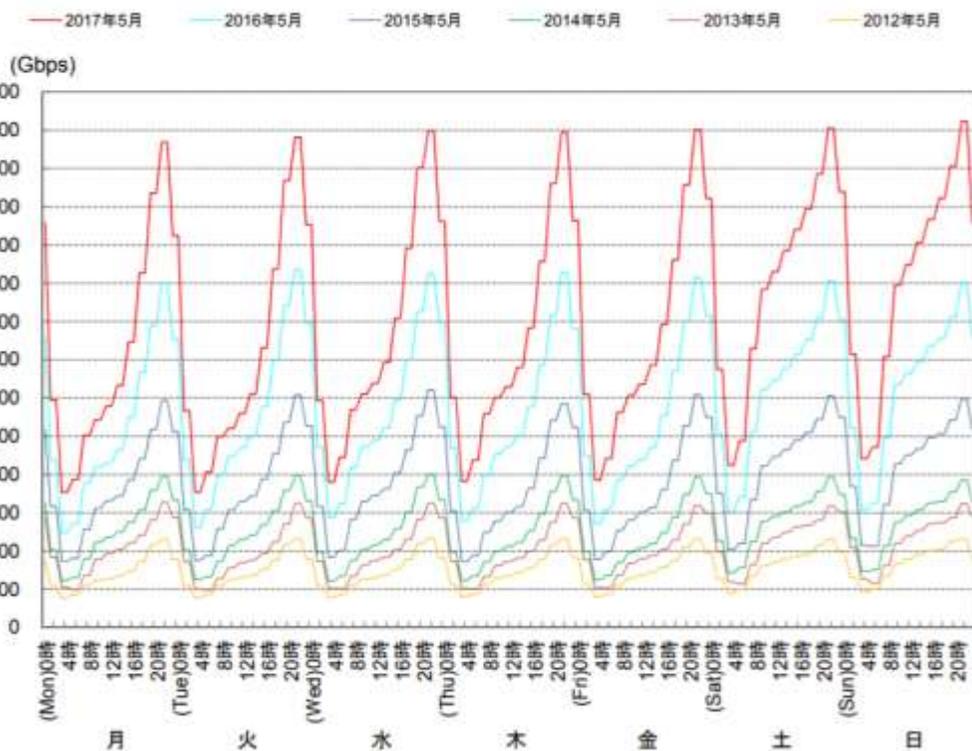
- 我が国のトラヒック(次頁参照)について、人が通常視聴をしない時間帯(オフピーク)においてトラヒックが増加している傾向があり、その要因について以下の点が考えられる。
- ① 監視カメラによる常時映像配信
近年急速に普及しているネットワークカメラ(監視カメラ等)は、遠隔監視等のためクラウドなどへ映像を常時配信・アップロードしている。米Ciscoによれば、当該トラヒックによるトラヒック全体への影響は既に顕在化しつつあり、2021年までに13%まで拡大すると予想している。ネットワークカメラ(HD画質対応)は1台あたり300GB/月の容量を配信と言われており、今後IoTデバイスとして普及した場合、ピーク時に限らず全体のトラヒック増に寄与すると考えられる。
 - ② スマホ等コンシューマユース
スマホやPCによるテレビ電話利用やSNSにおける映像広告の増加、スマホのアプリのバックグラウンドにおける自動アップデート、屋内外のオフロード時(Wi-Fi接続等)におけるスマホ経由のダウンロード・アップロード(写真・動画含む)、などコンシューマユースにおけるピーク時に限らないトラヒック増要因が想定される。
 - ③ その他IoT機器による通信
米Ciscoによれば、IoT等M2Mのトラヒックは現在は3%程度であるが、2021年までには6%まで拡大する。機器あたりのトラヒック量は大きくないが、大量接続により、ピーク時に限らず全体的なトラヒック増要因として想定される。主なアプリケーション・分野としてはコネクテッドホーム、コネクテッドカーなどが考えられる。

2.国内のトラフィックの特性 ①固定ブロードバンド/時間帯別

- 固定ブロードバンド契約者のピークトラフィックの時間帯は21時から23時にある。
→ 放送における、いわゆる「プライムタイム」（一般に19時～23時）の後半と重なる。
- 週末は日中時間帯の利用も多い。

図. ブロードバンドサービス契約者の時間帯別トラフィック

ダウンロード



アップロード

